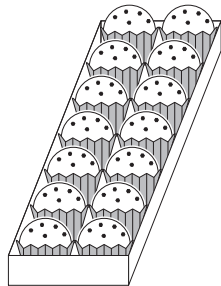
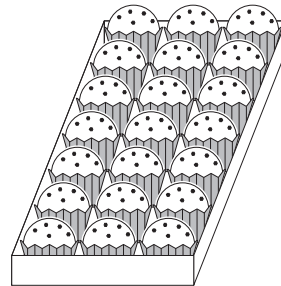


1

カップケーキが、下のように売られています。1箱14個入りで1050円の**Aセット**と、1箱21個入りで1470円の**Bセット**があります。



Aセット（14個入り）
1050円



Bセット（21個入り）
1470円

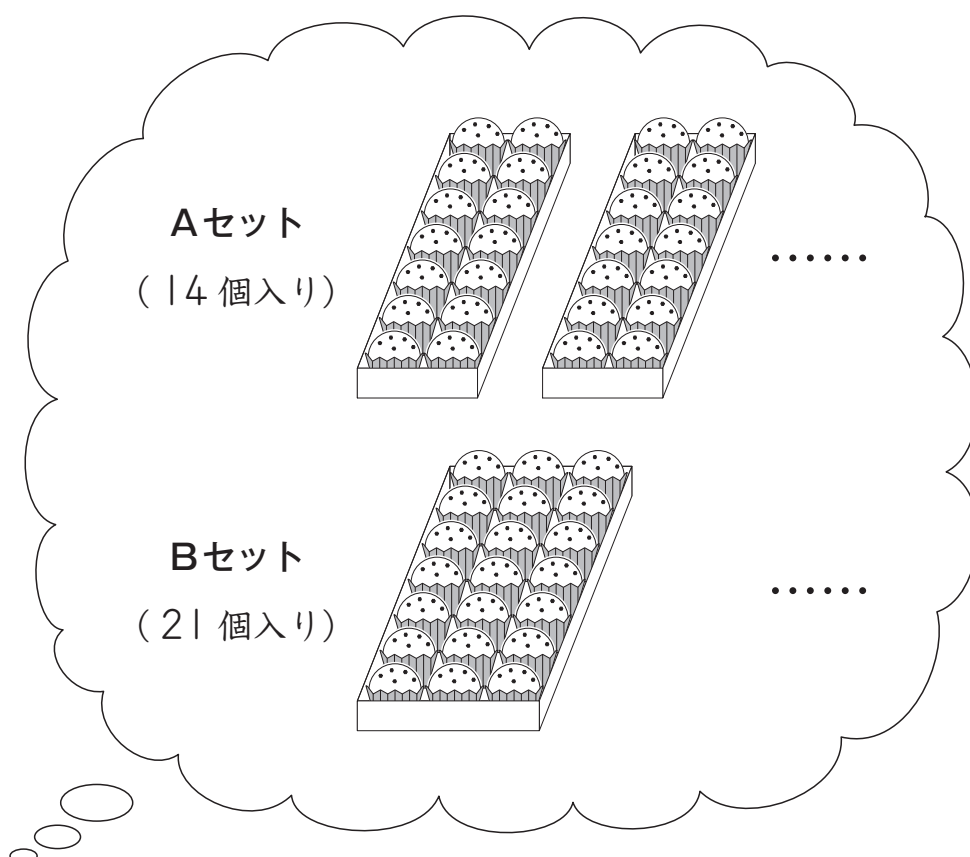
(1) ゆうさんは、**Aセット**を4箱買うことにしました。

Aセット4箱分の代金を求める式は、 1050×4 です。

1050×4 を計算しましょう。

あいりさんたちは、**Aセット**と**Bセット**のカップケーキを同じ個数にそろえたとき、どちらのほうが安くなるのかについて考えています。

- (2) まず、あいりさんは、**Aセット**と**Bセット**をそれぞれ何箱か買ったとして、考えることにしました。



あいり

カップケーキの個数を、14と21の最小公倍数にそろえて考えます。

14と21の最小公倍数を書きましょう。

- (3) 次に、くるみさんは、カップケーキの個数を7個にそろえて考えることにしました。

【くるみさんの考え】

Aセットのカップケーキ7個分の値段 $1050 \div 2 = 525$ 525 円

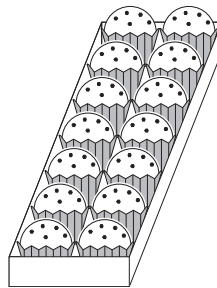
Bセットのカップケーキ7個分の値段 $1470 \div 3 = 490$ 490 円

カップケーキ7個分の値段は、Bセットのほうが安くなります。



Aセットのカップケーキ7個分の値段を、 $1050 \div 2$ で求めることができるのはどうしてですか。

ゆうとさんは、Aセットのカップケーキ7個分の値段を、【くるみさんの考え】の中の「 $1050 \div 2$ 」で求めることができるわけについて、下のよう^に説明しました。



Aセット（14個入り）

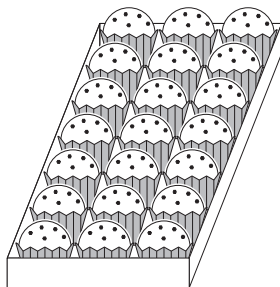
1050 円

【ゆうとさんの説明】



1列のカップケーキが7個ずつ2列あります。2列の値段が1050円なので、1050を2等分すれば1列に並んでいるカップケーキ7個分の値段を求めることができるからです。

Bセットのカップケーキ 7 個分の値段を，【くるみさんの考え】の中の「 $1470 \div 3$ 」で求めることができるわけについて考えます。そのわけを【ゆうとさんの説明】と同じように，言葉と数を使って書きましょう。



Bセット（21 個入り）

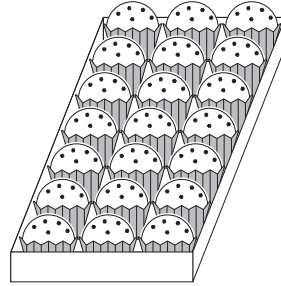
1470 円

(4) カップケーキが1個入り85円でも売られています。

くるみさんは、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段と、**Bセット**1箱分の値段である1470円を比べることにしました。



1個入り
85円



Bセット (21個入り)
1470円

1個入り85円のカップケーキ21個分の値段は、 85×21 で求めることができます。



くるみ

85×21 の答えが1470より**必ず大きくなる**ことは、 85×21 をそのまま計算せずに、85と21をがい数にして計算してもわかります。

85×21 の答えが、1470より**必ず大きくなる**ことがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。

下の **ア** から **エ** までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 85を小さくみて80，21を小さくみて20として計算します。

イ 85を小さくみて80，21を大きくみて30として計算します。

ウ 85を大きくみて90，21を小さくみて20として計算します。

エ 85を大きくみて90，21を大きくみて30として計算します。